

指定管理業務 令和4年度事業評価書（指定管理者及び市作成）

指定管理者名	特定非営利活動法人 来未 iwakura				
施設名	岩倉市生涯学習センター	施設所管課	生涯学習課		
指定期間	令和2年4月1日 ～ 令和7年3月31日（3年目）				
施設の設置目的	市民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって市民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与することを目的とする。				

評価項目	評価基準	指定管理者					施設所管課					委員会						
		評価					コメント	評価					評価					
		1年目	2	3	4	5		1	2	3	4	5	1	2	3	4	5	
		2年度	3	4				2	3	4			2	3	4			
I 履行の確認																		
1 施設全般の管理運営に関する業務																		
(1) 職員配置	職員は、基本協定書に基づき適切に配置されたか	A	A	A			業務責任者と管理運営業務を実施するための適正な数の職員を配置した。また、窓口職員は、1名以上配置する仕様となっているところ常時2名を配置し、利用手続きや収納等を正確で円滑に進めることができた。	A	A	A			講座等運営及び施設管理において、職員を適切に配置し、円滑な運用がなされていた。窓口職員は、常時1人を配置すれば基本協定書の水準を満たすところ、常時2人を配置するとともに、事務室においては公金等現金を扱うことから、常時複数人の職員が配置され適切な運用がなされていた。	A	A	A		
(2) 職員研修	業務に必要な研修は適切に実施されたか	A	A	A			計画に沿った幅広い内部研修を11回実施した。また、外部研修に2回参加し、職員の資質向上を図った。結果として、利用者サービスと良質な管理運営業務に繋がった。	B	B	B			職員研修は内部研修だけでなく、愛知県が主催するNPOマネジメントに関する研修に参加するなど年13回の研修を実施したほか、サクランド岩倉の防災訓練にも参加し職員の資質向上に努めていた。	B	B	B		
(3) 市への情報提供	報告等の市への情報提供は、基本協定書に基づき適切に実施されたか	A	A	A			市への情報提供は、毎月と随時の報告により確実に行うことができた。新型コロナウイルス感染症に係る部屋利用等の対応では、市と綿密な連携を図りスムーズな運営ができた。	B	B	B			管理運営状況の報告は、月次モニタリングや月次報告書を通じて定期的に行われたほか、協議事項等があれば随時報告、協議が行われ確実な情報共有がなされた。	B	B	B		
(4) 利用促進業務	施設や事業に関する情報が、印刷物やホームページを通じて市民に適切に提供されたか	B	B	B			講座の開催状況は、市広報の折り込みや生涯学習センターのホームページ、岩倉駅地下道掲示板で提供し、市民に広く周知できた。また、台風による臨時の休館や講座開催日の変更では、ホームページで的確に情報提供するとともに利用予定者等すべてに対し直接連絡し確認した。	B	B	B			市民への情報提供については、生涯学習講座情報を掲載した冊子「生涯学習へのご案内」を市広報紙に折り込み、全戸配布し広く情報提供することができた。臨時休館や講座日程が変更になった際はホームページで情報提供するとともに、施設利用予定者や講座受講者に対し速やかに連絡するなど、適切な取り組みがなされた。	B	B	B		
(5) 利用者本位の管理運営	アンケートを実施するなど利用者の声を聴取し、業務に反映する取組みを行ったか	A	A	A			利用者の声を聴く「ご意見箱」を設置するとともに、幅広い利用者のアンケートを実施した。利用者会議は、3回開催し管理運営について意見交換し、業務に活かすことができた。ま	A	A	A			講座受講者へのアンケートや年3回の利用者会議、利用者へのアンケートを実施したほか、定例利用する生涯学習サークルと社会教育関係団体との意見交換会を今年度から実施するなど	A	A	A		

						た、本年度初めて、定例利用の生涯学習サークルと社会教育関係団体との意見交換会を開催した。					これまで以上に幅広い利用者からの意見を聴取することができた。生涯学習サークルの登録要件や生涯学習センターフェスティバルの運営についてなど、利用者からの意見を基に今後の運営改善の参考にすることができた。				
2 利用者に関する業務															
(1) 受付業務	利用申請の受付、許可書の発行等の業務は適切に実施されたか	B	B	B		利用申請の受付から許可証の発行等の業務は、2重チェックにより確実に対応することができ、1件のトラブルもなかった。また、新型コロナウイルス感染症や台風に伴う使用料の還付についても市と連携して正確かつ円滑に手続きができた。	B	B	B		2重チェック体制により、確実に対応することができた。台風により臨時休館になった際は利用予定者すべてに電話連絡するなど迅速で丁寧な対応を行い、トラブルは1件もなかった。使用料の還付についても、市と連携し適切な手続きがなされた。	B	B	B	
(2) 利用状況	施設の利用状況は、事業計画書の水準に達したか	C	C	B		施設の利用制限は、4月から撤廃されたが、新型コロナウイルス感染症の第7波では利用の自粛があり部屋利用が減少した。事業計画の部屋利用率55.5%、利用者数87,000人の目標は、部屋利用率55.4%、利用者数90,750人となり目標は概ね達成できた。なお、前年度に対しては、部屋利用率が5ポイント増加し、利用者数が19.8%増加した。	B	B	A		施設の利用状況については、部屋利用率は55.4%、利用者数は9万750人となり、利用率、利用者数ともに昨年度実績（部屋利用率50.4%、利用者数7万5,743人）を上回ることができた。 事業計画書の目標（部屋利用率55.5%、利用者数8万7,000人）も概ね達成することができた。	B	B	B	
(3) 使用料	料金収納に関する業務は、市の例規に基づき適正に実施されたか	B	B	B		使用料は、日に3回の料金確認により間違いがあった場合に早期発見ができる対応とした。また、講座受講料や使用料は、確実に徴収を行い市への納付は適正に行うことができた。	B	B	B		適切に実施された。	B	B	B	
3 保守点検及び維持管理業務等															
(1) 保守点検業務	保守点検は、基本協定書に基づき適切に実施されたか	A	A	A		法定点検は、専門業者の有資格者により適切に実施するとともに、1日2回の職員による日常点検を行い施設の状況を把握し対処することができた。また、非常用照明は、2回の自主点検を実施した。	A	A	A		基本協定書にある保守点検業務に加え、非常用照明の自主的点検や開館時、閉館時の施設点検を行うことで不具合などの早期発見、早期修繕に努めていた。	A	A	A	
(2) 清掃、保安等の維持管理業務	清掃、保安等の維持管理業務は、基本協定書に基づき適切に実施されたか	A	A	A		日常清掃は、専門業者の職員が常駐し適切に清掃を行った。また、職員も定期的に巡回し清掃を行った。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対応では、部屋利用後の机・椅子・スイッチ・備品等の消毒をチェックシートにより確実に実施するとともに、共用部の手すり・机・椅子等の定期的な消毒を実施し、安全で安心できる施設とすることができた。 施設の日常点検では、チェックシートに基づき、開館前・閉館時にすべてを点検するとともに、開館中は適宜巡回し、不具合や破損、事	B	A	A		新型コロナウイルス感染症の対応で部屋利用後にチェックシートを用いた消毒作業を行うなど清掃業務は適切に実施されていた。 それ以外の日常点検もチェックシートを用いて確実に実施された。専門業者による清掃点検だけでなく、職員も定期的に巡回し清掃を行った。また職員によりエアコン26台の吹出口の清掃を行った。清掃意識高く、適切に維持管理されていた。	A	A	A	

						故等の早期発見に努めた。床やエアコン等の点検清掃は、専門業者により実施し適切な保守ができた。また、本年度は、職員がエアコン吹き出し口のルーバーの清掃を 26 台実施した。									
(3) 修繕業務	修繕業務は、適切に行われたか	A	A	A		毎日の点検により修繕箇所の早期発見に努め、ロールカーテンの操作ひもの取替えや壁クロス、障子の補修等の簡易な修繕は、職員が対応し経費節減に努めた。また、専門的な修繕は専門業者で迅速に対応し、利用者満足に努めた。	B	B	B		修繕箇所の早期発見、早期対応に努め、迅速な対応がなされていた。軽微な修繕については職員等で修繕するなど経費削減の意識を持ちながら適切に対応がなされていた。	B	B	B	
4 事業の実施に関する業務															
(1) 生涯学習講座事業	生涯学習講座の企画、募集及び運営は、基本協定書及び事業計画書に基づき適切に実施されたか	C	B	B		生涯学習講座（自主事業講座を含む）は、多種多様な講座や現代的課題の講座、要望がある講座を事業計画どおり 101 講座開催することができた。 全体の申込倍率は、定員 2,613 人に対し 4,122 人の申込みがあり、1.58 倍と多くの申込みがあった。本年度は、会場とオンラインの同時開催とするハイブリット型の講座を初めて開催した。また、土日開催を増やすとともに 1 日で行う 1 day 講座や夜間講座を開催するなど受講の機会を幅広く提供することができた。子育ての講座では、お子さんから離れ集中して受講できるように無料の託児サービス（4 講座 11 回 子ども延べ 69 人）を行った。受講者数は、2,830 人で計画したが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため定員を制限したため 2,570 人となった。	B	B	B		講座数は事業計画書通り 101 講座開催することができた。全体の申し込み倍率は定員に対し 1.58 倍となり、幅広いジャンルで魅力的な講座を開催することができた。本年度初めて会場のほかにオンラインでも受講できるハイブリット型の講座を開催したほか、土日の講座の増設や 1 day 講座、夜間の講座を開催するなど、受講の機会を幅広く提供することができた。子育て講座では講座中の無料託児サービスを行うなど、普段講座を受講することが難しい人へ向けて参加機会の拡充を図ることができた。	B	B	B	
(2) センター運営事業	生涯学習センターの運営は、基本協定書及び事業計画書に基づき適切に実施されたか	C	C	B		新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、2 年間開催を見送ったサークル振興等のためのセンターフェスティバルは、3 年ぶりに 43 団体の参加で開催することができた。また、子どもの育成支援のため、図書館ボランティアと連携して読み聞かせを月に 1 回開催することができた。	B	B	B		生涯学習センターフェスティバルを 3 年ぶりに開催するなど、新型コロナウイルス感染防止に努めつつ、概ね計画通り運営することができた。	B	B	B	
(3) 自主事業	自主事業は、事業計画書に基づき適切に実施されたか	B	B	B		自主事業講座「学びの郷」は、10 講座で企画し募集した結果、1 講座で規定の人数に達しなかったため 9 講座の開催となった。 ギャラリーの活用では、一眼レフカメラ講座の受講者の成果写真を展示した。また、岩倉市の紹介写真を展示し岩倉市の魅力を発信す	B	B	B		自主事業である「学びの郷」は、10 講座中 9 講座開催され、市民協働で進める講座の充実を図ることができた。また、学びの郷の一眼レフ講座受講者の成果写真を生涯学習センターギャラリーで展示するなど、ギャラリーを積極的に活用することができた。	B	B	B	

						ることができた。										
(4) 関係団体・市民との協働	市、登録団体、市民等と協働して事業に取り組んだか	A	A	A		「シニア大学」や「熟年者さわやかセミナー」講座は、市民ボランティアと協働して市民ニーズに沿ったものや行政の情報を取り入れるなどバラエティ豊かな内容で企画運営することができた。また、大学と連携し質の高い講座を開催することができた。 管理運営では、幅広い利用者の意見を聴く利用者会議を3回開催し、生涯学習サークルと社会教育関係団体との意見交換会も実施することができた。	B	B	B			講座全体を通して市、近隣大学、市民等と協働し市民ニーズに沿った質の高い多様な講座が開催された。施設利用者や講座受講者、サークル代表者などからなる利用者会議を年3回開催した。また、生涯学習サークル、社会教育関係団体との意見交換会も実施し、幅広い利用者からの意見をもとに、施設の管理運営に活かすことができた。	B	B	B	
5 個人情報の取扱い	個人情報の取扱いが適正に行われたか	B	B	B		個人情報のデータは、外部に繋がっていないパソコンのみで使用し、データの移動を禁止した。また、内部研修により個人情報保護の重要性を職員一同が確認した。	B	B	B			個人情報の漏えいや不正利用はなく、適切に取り扱われた。	B	B	B	
6 設置目的の達成(管理目標)	管理する上で施設本来の目的を達成できたか	B	B	B		感染防止対策を確実にいき、安全で安心して利用できる施設として、講座の開催やサークル活動の場を提供することができた。また、サークル支援等を目的とするフェスティバルは、利用者等で構成する実行委員会と協働で開催することができ生涯学習活動を推進することができた。	B	B	B			コロナ禍で生涯学習活動が制限される中、講座の開催や部屋の貸し出しなど、感染対策を確実にいながら市民の文化活動やサークル活動の場を提供することができた。また、生涯学習センターフェスティバルではサークル支援や生涯学習活動の発信ができ、本市における生涯学習振興の拠点施設としての機能を発揮することができた。	B	B	B	
I の総括	《標準評価項目数12本》 当該施設評価項目数17本	B	B	B			B	B	B				B	B	B	
II サービスの質の評価																
1 利用者満足度	利用者アンケートを実施し、その結果は妥当であるか	A	A	A		施設利用者からの237通のアンケート結果では、「総合的な満足度」が満足とやや満足を合わせ昨年度より0.4ポイント上がり、99.5%となり昨年度に引き続き高く評価された。	A	A	A			施設利用者へのアンケート調査の結果、利用者満足度は非常に高い。	A	A	A	
2 苦情への対応	苦情が多数寄せられなかったか 寄せられた苦情への対応は適切に行われたか	B	B	B		苦情及び対応は下記のとおり。なお、苦情については、利用者会議で意見交換し、運営管理に活かすことができた。 ○子供ルームで幼児の保護者が子どもを自由に遊ばせているため乳児の子どもが安心して利用できない。 → 室内に「利用についてのお願い」を掲示するとともに、定期的に職員が見回りを行い適切な利用をお願いした。結果、利用マナーの改善に繋がった。	B	B	B			施設利用者からの苦情については、市に報告するとともに利用者会議で意見交換を行い、改善に向けて検討・対応がなされた。	B	B	B	
3 維持管理業務	日常清掃業務や衛生管理は適切に	A	A	A		日常清掃は、専門業者の職員が常駐して清	B	B	B			専門業者と職員の手により施設内は常時清潔	B	B	B	

	〔清掃、備品等の維持管理〕 行われたか 備品などの設備の維持管理は適切に行われたか						掃を行っているが、職員も定期的に巡回し、点検清掃した。施設や備品は、利用前後の点検と利用後に消毒を行った。また、破損・不具合等には速やかに対応した。						に保たれていた。利用前後に消毒を行い、安心して利用できる環境が保たれていた。 備品等については日常的に点検を行い、不具合や破損が見つかった際は、市に報告するとともに、可能なものは職員で修繕する等、迅速かつ適切な対応がなされた。					
4 接客対応	利用者への接客態度は良好だったか	A	A	A			職員の接遇・心構えは、内部研修によりスキルアップを行った。利用者アンケートの「職員の対応」では、98.2%が満足・やや満足であると回答し、高評価となっている。しかし、昨年度より 0.9 ポイント下がったことから、内部会議でアンケート結果を共有し改善に繋がった。	A	A	A			利用者へのアンケート調査の結果、利用者満足度は非常に高く、丁寧な対応ができています。	A	A	A		
5 指定事業・自主事業 (事業内容の質)	実施された事業の質は良好だったか	B	B	B			生涯学習講座は、幅広いジャンルと話題性がある講座や高度で専門的な内容を、わかりやすい講義内容で提供することができた。講座終了後は、すべての講座でアンケートを実施し、ほとんどが満足と回答があった。自主事業の市民講師による「学びの郷」講座は、9講座を開催することができ、講座終了後のアンケートも好評であった。また、「学びの郷」講座は、生涯学習の最終目標である「自己実現・社会貢献」の推進に貢献することができた。	B	B	B			生涯学習講座は、特定の分野に偏ることなく様々な内容のものが企画されるとともに、講師として大学教員等の高度な専門知識・技能を有する人を招くことで、多様化・高度化する市民ニーズに対応できるようなものとなっていた。オンライン講座も開催するなど受講機会も拡充することができた。受講者へのアンケート結果でも満足度は高く、質の高い事業が実施された。 自主事業である「学びの郷」では募集した10講座中9講座の開催となったものの受講者アンケートの満足度は高く、事業全体として良質なものであった。	B	B	B		
IIの総括	《標準評価項目数4本》 当該施設評価項目数5本	A	A	A				B	B	B				B	B	B		
III サービスの安定性の評価																		
1 事業収支	事業収支は黒字になっているか	B	B	B			事業収支は、エネルギー価格上昇に伴う支出が増加したが、増加分相当に対する市の原油価格等高騰対策支援金があり黒字となった。	B	B	B			黒字となっている。エネルギー価格上昇に伴い支出が増加したが、空調のこまめな管理、換気を強から弱にする、ロビーなどの共用部分の照明を間引くなど経費削減を意識しながら運営にあたっていた。	B	B	B		
2 有資格者	業務に必要な有資格者は確保されていたか	B	B	B			仕様書に基づく有資格者を確保し、適正に業務を実施した。また、職員には防火管理者、第二種情報処理技術者、学芸員資格、食品衛生責任者、簿記1級、電気工事士、管工事施工管理技士1級などの資格所有者おり管理運営業務に活かした。	B	B	B			仕様書に基づく有資格者である防火管理者が確保されている。また、その他の資格所有者も配置されており、業務に活かされている。	B	B	B		
3 経理業務	経理事務は適正に行われたか	B	B	B			出納帳等の帳簿は、確実かつ明確に作成され、部屋等使用料や講座受講料は、適正で遅滞なく納付することができた。	B	B	B			出納帳簿が作成され、現金は金庫で厳重に保管されていた。部屋使用料等は、適正な金額が遅滞なく納付された。	B	B	B		

4 団体の財務状況	団体の財務状況は、業務の継続が可能な状態か	A	A	A			5年間の指定管理期間を適切に管理運営できるよう計画的に業務経費の支出管理を行っている。また、負債はなく正味財産も一定額あり、継続して運営できる状態である。	A	A	A			5年間の指定管理期間を適切に管理運営できるよう計画的な業務経費の支出管理が行われている。団体の正味財産も一定額あるため、業務の継続に支障はない。	A	A	A		
Ⅲの総括	《標準評価項目数3本》 当該施設評価項目数4本	B	B	B				B	B	B				B	B	B		
Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを合わせた総合評価		B	B	B				B	B	B				B	B	B		

成果・課題等

	指定管理者	施設所管課
成果	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策を確実に実施し、安心して利用できる施設とした。また、事件、事故もなく安全な施設管理を行うことができた。利用手続きや料金収納は、公正・公平に行い1件のトラブルもなかった。</p> <p>生涯学習講座は、幅広いジャンルで質の高い魅力的な講座を企画するとともに、会場とオンラインの同時開催によるハイブリット型の講座や土日・1dayの講座を多く開催し、受講機会を拡大することができた。また、講座全体の定員2,613人に対し4,122人の申込みで、申込倍率が1.58倍と多くの申込みがあり、市民の講座への期待が大きかった。講座終了後には、すべての講座でアンケートを実施した結果、ほとんどの受講者が満足であるとの回答であった。シニア大学・熟年者さわやかセミナーの講座では、市民ボランティアと連携し企画運営することにより、市民ニーズに沿った内容を開催し好評を得ることができた。</p> <p>サークル会員の支援等を目的とした生涯学習センターフェスティバルは、市民で構成された実行委員会と連携して3年ぶりに開催することができた。</p> <p>生涯学習の拠点施設として活気に満ちた生涯学習センターとするために、利用者会議を3回開催するとともに、本年度は初めて生涯学習サークルと社会教育関係団体との意見交換会を開催することができ、運営管理業務に活かすことができた。</p> <p>施設利用者から237通のアンケート調査を実施した結果、総合的な満足度が昨年度より0.4ポイント高い99.5%となり引き続き高い評価を得ることができた。</p>	<p>部屋の人数制限や飲食禁止の制限を撤廃した中で、検温、消毒、換気等の基本的な感染拡大防止対策を確実に実施されていたほか、台風による臨時休館の際には迅速に利用者に周知するなど、利用者第一で安心して利用できる施設運営がなされていた。</p> <p>生涯学習講座は事業計画どおり101講座を開催することができた。そのほとんどで定員を上回る応募があり、市民ニーズに沿った魅力的な講座が企画された。特別講座では会場とオンラインとの同時開催によるハイブリット型の講座が開催され、受講機会の拡大を実現することができた。オンライン講座受講者を対象にしたZoom講座も企画され、オンラインに不安がある人も受講しやすくなるような工夫がなされていた。すべての講座で実施された終了後のアンケートでは、ほとんどの受講者が満足であるとの回答があり、全体を通して質の高い魅力的な講座が開催された。</p> <p>3年ぶりに開催することができた生涯学習センターフェスティバルでは、各団体の活動や魅力を伝える機会となっただけでなく、発表機会の提供や団体間の交流の場としての役割も持つなど、生涯学習サークルや活動団体の支援につながった。その他、サークル支援として生涯学習サークルと社会教育関係団体の会員募集記事を市広報紙に掲載したほか、生涯学習サークル・社会教育関係団体意見交換会を令和4年度初めて実施し、団体から直接意見を聞くことができる貴重な機会となった。</p> <p>利用者アンケートの結果を見ても総合的な満足度が昨年より0.4ポイントと上昇し99.5%となっており、利用者の満足度は非常に高く、施設全体として良質なサービスを提供することができた。</p>
課題	<p>サークル会員の高齢化と新規参加者が減少しているため、サークル支援を強化する必要がある。</p> <p>部屋利用人数や利用率は増加したが、利用が限定している料理室や和室の利用率の向上を図っていく必要がある。</p> <p>供用開始後13年が経過し、設備の老朽化が進んでおり、早期の対応により安全で安心できる施設とする必要がある。</p>	<p>生涯学習サークル、社会教育関係団体の数は高齢化やコロナの自粛期間の影響により年々減少している。意見交換会でも人数の減少により団体の存続に危機感を持っている団体があるため、市広報紙での会員募集記事の掲載のほか、引き続きサークル支援を検討していく必要がある。</p> <p>コロナの動向が落ち着いてきたこともあり利用人数や利用率は増加したが、料理室や和室など利用が限定している部屋の利用率向上が必要である。</p> <p>経年劣化により施設の老朽化が進んでいるため、定期点検や巡回時の点検により早期に修繕が必要な箇所を把握し、対応していく必要がある。</p>
課題解決のための方策 (協議結果等)		<p>サークル会員拡大のため、市広報紙を始め様々な媒体を使った会員募集やセンターフェスティバルを開催する。引き続き意見交換会を開催しサークルの状況を把握する。ギャラリーを活用し団体の宣伝や発表の場を提供する。</p> <p>利用率の低い部屋について、生涯学習講座で料理室を使用する回数を令和3年度よりも増加させたほか、岩倉市図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせ「おはなし会」を令和3年度から継続して和室で開催し、料理室や和室の利用率向上を図ったが、引き続き生涯学習講座で使用し、利用率向上を図る。</p> <p>設備・備品は、使用后や毎日の日常点検と専門業者による定期的点検を行うとともに、早期の修</p>

		繕を実施する。
--	--	---------

指定管理者評価等委員会 評価	B	<p>「Ⅰ履行の確認」については、基本協定書及び事業計画書に基づき適正に管理運営が行われた。利用者アンケートの「センターの使いやすさ」「センター内の安全性」の項目について、「満足」「やや満足」と答えた率が100%であり、また、その他の項目についても「満足」「やや満足」と答えた率が概ね90%を超えており、適切に管理運営が行われた。</p> <p>「Ⅱサービスの質の評価」については、専門業者と職員による適切な施設の維持管理が行われ、また、接客対応についても、利用者アンケートの結果、ほぼ100%と高い評価を得ており、利用者満足度の高い運営が行われた。</p> <p>「Ⅲサービスの安定性の評価」については、事業収支については黒字であり、適切な運営がされた。</p> <p>総合評価として、利用者アンケートの結果からも満足度の非常に高い運営がされ、指定管理業務について目標や計画どおりの成果があり、適正な管理が行われた。</p>
-------------------	----------	---

《評価区分》

① 評価項目(細目)の評価基準	<p>A (優 良) = 協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である。(的確に実施されているとともに、様々な工夫がされている。)</p> <p>B (良 好) = 協定書等の基準を遵守し、その水準に概ね沿った内容である。(的確に実施されている。)</p> <p>C (課題含) = 協定書等の基準を遵守しているが、内容の一部に課題がある。</p> <p>D (要改善) = 協定書等の基準を遵守しておらず、改善の必要な内容である。</p> <p>— (非該当) = 該当しない又は評価することができない。</p>
② 評価項目別総括	<p>A (優 良) = 評価項目(細目)が全てB以上であり、かつAが過半数である。</p> <p>B (良 好) = 評価項目(細目)が全てC以上であり、かつB以上が8割以上である。</p> <p>C (課題含) = 評価項目(細目)が全てC以上である。</p> <p>D (要改善) = 評価項目(細目)にDが含まれている。</p>
④ 総合評価	<p>A (優 良) = 目標や計画を上回る成果があり、特に優れていた。(評価項目(細目)が全てB以上であり、かつAが過半数である。)</p> <p>B (良 好) = 目標や計画どおりの成果があり、適正な管理が行われた。(評価項目(細目)が全てC以上であり、かつB以上が8割以上である。)</p> <p>C (課題含) = 目標や計画を下回る点があり、管理運営に対する努力が必要である。(評価項目(細目)が全てC以上である。)</p> <p>D (要改善) = 管理運営が不適切な点があり、業務改善勧告等の措置を講じるべきである。(評価項目(細目)にDが含まれている。)</p>